後輩へのメッセージⅡ

卒業論文作成を終えて

市村　雅人

３年生の合同ゼミを終えてから、卒業論文作成に取り組みました。まず、どのようなテーマにするのかを思案し、パワーポイントにて整理しました。が、これ！といった決定的なテーマもないまま漠然とテーマを何度も変更し、先生からも怒られ、テーマが決まったときには４年生になっていました。

卒論？２万字書けばいいだろ。みたいな軽い考えがありました。とんでもない…。ただ字数をクリアすればいいという甘いものではありませんでした。

まず、卒論とは形式がしっかりしていないと、提出という舞台に立てないものでした。字数、注釈、参考文献、起承転結など今までのレポートとは全くの別のものでした。自分の文章を書くより、色々な論文を読み、形式をしっかり知ることが重要になると思います。これにはかなりの時間を要し、夏ぐらいには知っておきたいものです。内容の良し悪しもさることながら、形式という大きな壁を感じました。

色々な卒論のテーマがあると思いますが、私の論文には、統計データが非常に重要となったため、情報収集に重きを置きました。そこでわかったことは、インターネットには限界があると言う事です。残念ながらレポートを作成するには充分かもしれませんが、卒論となるとやはり統計資料が不足しています。先生が日ごろから、足を使えとおっしゃっている理由がわかりました。

こんな事を書いていると、めんどくせーと、思われてしまいそうですが、今は卒論を作成し充実感に浸っています。卒業単位が足りている人は、ゼミは切ろうかな、なんて思っているかもしれませんが、東洋大学一の厳しさと情熱を持った藤井先生のもとで卒論を作成する価値はあると思います。

皆さんの健闘を心から祈っております。

就職活動

松本　健

はじめに

非常にベタな意見ではありますが、私が就職活動を終え切実に感じたこと、それは、「自分を信じ、決して諦めない」という信念が成功を生み出したということです。人それぞれのスタイルがあると思いますので、共感して頂ける方だけお付き合いください。私の考える「シュウカツ？」についてお話します。

①自己分析

皆さんがはじめに突き当たる壁、それは、「業界・職種・企業」選びだと思います。すでにお決まりの方は、そのまま突き進んで頂いて問題ありませんが、ここで重要なのが自己分析です。直感的な好き嫌いはもちろん有効ですが、それでも悩みの尽きない方は、過去に遡って自分自身の人間性を振り返ってみるか、実際にお仕事をされている方の意見を聞いてみるのがベストでしょう。「自分自身がどんな人間なのか？」なんて日常ではあまり考えませんが、一度立ち止まって物思いに老けてみて下さい。きっと道は開けるはずです。

②履歴書・エントリーシート(ES)

これは、面接・試験の機会を得るための第一歩となります。題目としては、「自己 PR・学生時代に打ち込んだこと・志望動機」など基本的な事項に始まり、マスコミ志望の方の場合は、白紙に対して「あなた自身を自由に表現して下さい」などといった、非常に難解なパターンも多数あり、計 4，5 枚なんてことも普通です。私自身、マスコミ・大手メーカーなどをはじめとした、難関企業へ 50 社以上エントリーしましたが、現状は非常に厳しく、ここで通過出来た企業の方が少なかったです。何万通もの応募の中、紙切れ一枚で自分自身の全てを評価されてしまう世界であるため、難関企業に対して月並みな人生経験を淡々と語っても正直アウトです。では、自己 PR・志望動機が「どうしたら目に留まるものとなるのか？」私の考えるポイントとしては、あなた自身が志望企業の社員になった気持ちで、採用担当者に「一緒にビジネスをしてみたい」と思わせるような内容に仕上げるということです。そのためには、まず相手を知らなければ、求められるものもわかりません。とにかく志望企業の研究に専念して下さい。そして、打ち込んだことについて、今までの大学時代の経験の中で秀逸しているものをいくつかピックアップし、深いところまで掘り下げみて下さい。きっとあなたにとってベストなネタが見つかるでしょう。ただ注意しなければいけないのが、高校以前のネタは基本 NG です。それでは、最後に最も重要なポイントについてですが、とにかく「熱意」を伝えることに尽きます。そして、経験を語るだけの内容で終わるのでは無く、それを志望企業で具体的かつ明確にどう生かしたいかまでを伝えることが、第一ステップ突破の道へと繋がるはずです。

③試験

試験に関しては、基本数字選択形式の「SPI」が主流となっていまので、とにかくテキストの勉強に専念して下さい。実施のタイミングとしては、履歴書・ES と同時期に行われますが、私自身、大手メーカー・大手広告に関しては 2 次面接と 3 次面接間の実施が非常に多かったです。また、外資・大手総合商社・一部大手広告では、プラスアルファで英語試験もありました。難易度は普通でしたが、問題数が非常に多かったため、英語能力の低い私にとっては酷な内容で、正直ここでかなり切られました。その他にも出版社では、お題を与えられた論文試験、大手広告ではお題を与えられ、白紙に自由表現をするクリエイティブ試験など、様々なパターンがありましたので、マスコミ志望の方は事前リサーチをされた方が良いかと思われます。

④面接

ES を通過するといよいよ面接の始まりですが、道のりはまだまだ長いです。私自身、大手マスコミに関しては 4 次・5 次が最終面接の企業も多数あり、順調に通過しても最低 1 ヵ月以上かかるケースがほとんどでした。ここでは、基本 ES の内容をメインに問われますが、「長所・短所・趣味・特技・学業(ゼミ活動・卒論)など」を始め、それ以外でも様々なパターンが想定されますので、どんな質問をされても即答出来るように、とにかく自身の引出しを目一杯作って下さい。ただ、仕込み過ぎて暗記した内容を棒読みするようなトークは NG ですし、トークの時間配分を面接時間に比例させなければなりません。その他にも集団面接・グループディスカッション・プレゼンテーションなど形式は多岐に渡りますが、膨大な量になりますのでここでは省略させて下さい。

※一般的な形式例

「学生時代に打ち込んだことは？」→返答(あなた)→「じゃあ具体的に何をしてみたの？」→返答(あなた) →「それで何を感じたの？」→？？？

といった具合にどんどん突っ込まれるので、そこまで想定して即答できるようにして下さい。また、最後にその経験を志望動機・職種にどう生かしたいかまで繋げることが肝心です。正直、はじめは心

臓バクバクに緊張して、イメージ通りに話せないなんてことも多々ありましたが、回数をこなせば人間自然となれるのでご心配なく。場数を踏むことで自分のスタイルも出来上がります。私の場合、後半戦では面接が楽しくなりました。

おわりに

ここでお話したことは初歩的な部分のみで、伝えきれないことが山のようにあるのは残念ですが、これから就職活動に向かう皆様、とにかく自分に「自信」を持って下さい。就職活動には、「締切り間近のエントリーシートが山済み」・「ベストを尽くしたのに評価されない」・「周囲の友人が先に内定を貰った」・「あと一歩、最終面接で落とされた」などやり切れない気持ちになるシーンが、多々待ち構えています。私も第一志望企業に最終面接で落とされた時には、丸一週間引きこもってしまいました。そんな時でも、信じられるのは自分だけ。決して諦めないで、最後まで突き進んで下さい。必ず成功が待っているはずです。

卒業論文

松本　健

私が論文の執筆にあたり抱いた最も大きな悩みとは、やはり「テーマ」選びでした。卒業論文は、大学３年時の夏よりスタートするのですが、当初は、最後まで諦めずにやり抜けそうなテーマの選択に、暗中模索していたことを思い出します。

煮詰まった脳裏にふと過ぎったのは、私にとって最も身近な「東京ディズニーリゾート」でした。私自身、浦安市に在住しており、目と鼻の先にあるものはそれでした。しかし、論文テーマとしては非常にベタなものであったため、「どうにか人と違ったものにしたい？」という悩みが生じました。

そこで閃いたのは、東京ディズニーリゾートによる浦安市への地域振興であり、長崎ハウステンボスによる佐世保市への地域振興との比較でした。テーマが決定してからは、まず、学内の図書館・国会図書館などに足を運び資料調達に専念し、それからは比較的スムーズに執筆を進めることが出来ました。

無事、論文執筆を終え感じたことは、最後まで飽きることなく専念出来たテーマ選択が、私にとっては非常に大きな要因であったと思います。これから卒業論文の執筆に取り掛かる皆様、あなたの興味・関心が尽きることのないテーマ選びに、じっくりと時間を掛けることをおすすめします。